

各協同組合からのお知らせ
 MELON の協力団体である各協同組合が取り組んでいる、環境に関する情報をご紹介します。

森と人をつなぐ市民のつどい

～”こ～ぷの森”づくりから見えてきたもの～

森と私たちの暮らしとの深いつながり、
 そして森が育む命の循環について考えます



問い合わせ・連絡先
 〒981-3194 仙台市泉区八乙女 4-2-2
 みやぎ生協生活文化部 緑の基金運営事務局
 TEL : 022-218-3880 FAX : 022-218-3663

日時 2009年1月31日(土) 13:00～15:45
 会場 せんだいメディアテーク 1F オープンスクエア

- ◆基調講演 西口親雄さん
 13:00～14:00 テーマ「日本人の森づくり」
- ◆パネルディスカッション
 親川麗子さん (COOP 緑の基金運営委員長)
 小関俊夫さん (船形山のブナを守る会代表)
 竹内信男さん (登米町森林組合参事)
 真山美知代さん (風待ち研究会代表)
- ◆展示コーナー
 森の写真、広葉樹標本、消臭炭、身近な木工品など

主催：みやぎ生活協同組合
 後援：仙台森林管理署、(財)みやぎ・環境と暮らし・ネットワーク、
 (財)みやぎ林業活性化基金



MELON20 周年をめざせ！

50 人リレートーク



第 24 回目の執筆者
 二宮景喜さん
 (NPO 法人
 シナイモツゴ郷の会理事)

朝一番にシナイモツゴに餌をやる。すばやく浮いて来て、ピチピチと大きな音を立てて餌を食べる。イベントで展示したいという希望が時々あり、そのために、我が家の水槽で十数尾育てている。

体長7、8センチ。近縁種にモツゴがおり、モロコ類とも体形が似ている。当地の品井沼で発見され、新種登録されたのが名前の由来で、宮城県の地名を持つ唯一の淡水魚である。以前は東日本の田園のどこにでもいたが、今は東北や長野県のわずかな場所にしかいない絶滅危惧種である。

地元でも、生息の記録が60年以上もないまま、幻の魚になっていたが、1993年に鹿島台の2つのため池で再発見された。地元ゆかりのこの魚を残そう。鹿島台町(現大崎市)は直ちに天然記念物に指定した。ところが、このため池のひとつにブラックバスが密放流されていた。シナイモツ

ゴを救え。有志が立ち上がり、池干しでバスを駆除した。これがきっかけとなり、2002年に「シナイモツゴ郷の会」が設立されたのである。

それ以来、会は在来魚を保護し、増殖するためのさまざまな活動を続けている。会の原点であるシナイモツゴは「だれでもできる」を合言葉に開発した繁殖技術を用いて、里親の小学生に卵から育ててもらっている。里親校は既に5校になった。子どもたちが育てた稚魚は外敵のいない安全なため池に放流される。昔のように、シナイモツゴがどこにでもいる普通の魚になるように願いながら。

私の家にいるのは、鹿島台小学校の子どもたちが5年前に最初に育てたシナイモツゴである。野生種ながら今では慣れてピチピチと餌を食べにくる。何万年も種としての命を繋いできたシナイモツゴが、今からも生きられるような自然環境を守りたい。子どもたちと私たちの共通の願いである。

…次号執筆者…

三塚牧夫さん
 ナマズのがっこう事務局長。田園魚道の開発及び普及に取り組んでいる。

